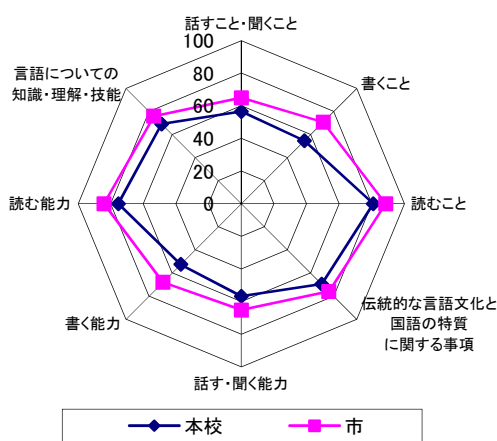


宇都宮市立白沢小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	56.6	65.0	62.9
	書くこと	54.6	70.9	71.3
	読むこと	80.8	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.5	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	56.6	65.0	62.9
	書く能力	52.5	68.0	68.0
	読む能力	75.4	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	69.2	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

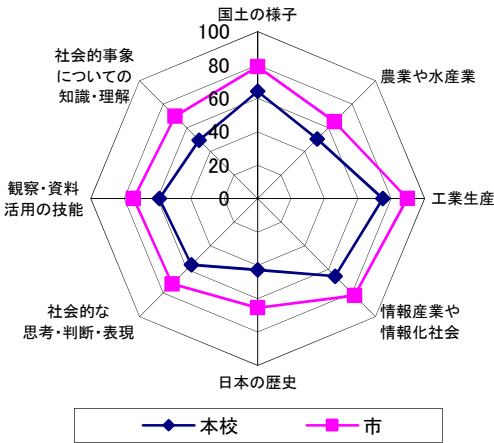
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市平均よりも下回っている。 ●司会者の役割を理解して、計画的に話し合おうとする設問において、正答率が27.6%となっている。 ●話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞く設問では、正答率が市平均を下回っている。	・国語やその他の教科、特別活動の時間に、話し合いの内容をよく聞き合ったり、意見交換をしたりする場を多く設けるようにする。 ・司会者をなるべく全ての児童に体験させるとともに、計画的に話し合いができるように、意図的に実践の場を持つようにする。 ・ペアやグループなどで互いの考えを交流させるなど、学び合いの活動において、話すこと・聞くことへの指導の充実を図る。
書くこと	平均正答率は、市平均よりも下回っている。 ●資料の内容を読み取って、文章に適切に書き表す設問において、正答率が32.9%と、市平均を下回っている。無解答が7.9%だった。 ●指定された長さで文章を書く設問において、正答率が52.6%と、市平均を下回っている。無解答が15.8%だった。	・模範となる文章を提示し、朝の学習の時間や家庭学習などで視写するようにしたり、教室内に掲示したりする。 ・文章を、指定された語句や文字数でまとめたり、要約したりする活動を繰り返し行う時間を設定する。
読むこと	平均正答率は、市平均よりも下回っている。 ●説明文の内容を的確に読み取る設問において、正答率が60.5%と、市平均を下回っている。 ●物語の登場人物の心情を読み取る設問において、正答率が市平均を下回っている。	・朝の読書や読み聞かせ、家庭での読書において、様々なジャンルの文章に触れることができるよう、本を紹介したり支援をしたりする。 ・説明文の要旨や物語のあらすじがつかめるような学習を繰り返し行ったり、ワークシートを活用したりして、理解が深まるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市平均よりも下回っている。 ○文の構成(述語)についての設問や、国語辞典の使い方についての設問において、市平均を上回っている。 ●第5・6学年の配当漢字の読み書きにおいて、市平均を下回っている。 ●三字の熟語の構成についての設問において、正答率が81.6%と、市平均を下回っている。	・漢字の読み書きに関して、漢字練習帳やドリルの活用、小テストの実施などを継続して行う。漢字の使い方を意識した文章の読み書きなどの学習を行いながら、正しい漢字を習得できるよう、繰り返し指導する。 ・漢字や語句、熟語などについての理解を深めるために、国語辞典や漢字辞典を活用する習慣をつけるようにし、授業でも積極的に利用する。家庭学習でも利用するよう助言する。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	64.2	79.1	74.9
	農業や水産業	50.7	65.1	63.7
	工業生産	75.0	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	65.8	82.2	73.1
	日本の歴史	42.8	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	56.2	72.2	69.0
	観察・資料活用の技能	58.9	74.3	69.2
	社会的事象についての知識・理解	49.5	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

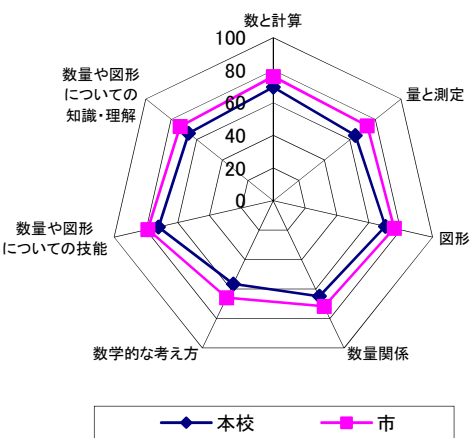
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は、市平均よりも下回っている。 ●日本の国土の理解についての設問において、39.5%と、市平均を下回っている。 ●主な国の名称と位置についての設問において、正答率が60.5%と、市平均を下回っている。	・日本の位置や領土、国土の様子や特色などについて、教科書だけでなく、資料集や地図帳、地球儀、白地図などの各種資料を積極的に活用したり、重要なところを繰り返し確認したりして学習し、理解が深まるようにする。世界の主な海洋や大陸、主な国の名称や位置などについても同様に学習を進める。
農業や水産業	平均正答率は、市平均よりも下回っている。 ●国産と外国産の農産物の値段の違いは、耕地面積や生産方法によるものであることを、資料を読み取り考えて、表現する設問において、正答率が26.3%となっている。無解答が10.5%だった。 ●米作りの作業工程と作業を行う季節についての設問において、正答率が31.6%と、市平均を大きく下回っている。	・資料の読み取りに課題が見られるので、グラフや表の読み取り方の手順や観点などを示し、正確に読み取れるよう指導する。 ・日本の農業や水産業について、資料などを参考に調べ学習を進め、関心が高まるようにする。
工業生産	平均正答率は、市平均よりも下回っている。 ●工業製品の種類の理解についての設問において、正答率が65.8%と、市平均を大きく下回っている。	・工業の種類について、金属・機械・化学・食料品の4つの分類と主な製品について、教科書や資料集などを活用して調べることで、自分の身近にあるものがどの分類にあたるのか関心を高めるような活動を取り入れていく。また、資料の読み方についての指導も行うようにする。
情報産業や情報化社会	平均正答率は、市平均よりも下回っている。 ●医療での情報ネットワークの利便性について、資料を読み取り考える設問において、正答率が63.2%と、市平均を下回っている。	・情報産業が様々な情報を提供し、国民の多くがそれらを利用していることや、情報ネットワークの働きが公共サービスの向上のために利用されていることなどを手がかりにして、自分の考えをまとめ、表現する活動を取り入れる。
日本の歴史	平均正答率は、市平均よりも大きく下回っている。 ○浮世絵の理解についての設問で、市平均を上回っている。 ●織田信長による天下統一に向けた政策について、複数の資料を読み取り考えて、表現する設問において、正答率が7.9%と、市平均を大きく下回っている。無解答が42.1%だった。	・校外学習や修学旅行等で現地での学習に取り組んでいるので、歴史的背景やその時代の文化などを具体的に理解できるようにする。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	69.6	76.2	72.9
	量と測定	64.3	73.6	70.6
	図形	70.4	76.0	72.1
	数量関係	64.9	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	56.6	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	72.2	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	66.4	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

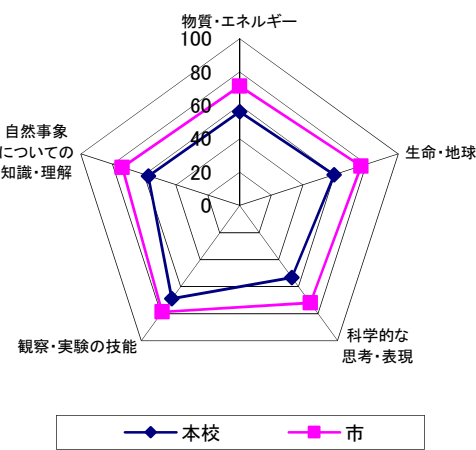
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市平均よりも下回っている。 ○小数第一位×小数第一位の計算では正答率が89.5%、真分数＋真分数＝真分数で分母どうしをかける通分をする計算では、正答率が84.2%と、市平均を上回っている。 ●問題の場面を理解し、白と黄の球根が縦に4回並ぶわけを説明する設問において、正答率が28.9%と、市平均を下回っている。無解答が34.2%だった。	・計算の反復学習を進めて理解の定着を図るとともに、文章の読解力を高める学習の時間を確保する。 ・小数、分数の計算、また、分数の通分・約分等に必要なわり算、公約数・公倍数などの理解が定着していない。反復学習を進めて理解の定着を図るとともに、習熟度別コース学習などにより、個に応じた支援を継続して行う。 ・文章の読解力を高める学習の時間を確保する。
量と測定	平均正答率は、市平均よりも下回っている。 ○値に0がある分離量の平均を求める設問において、正答率が86.8%と、市平均を上回っている。 ●教室の面積と児童の人数から、1㎡あたりの人数を求める設問において、正答率が18.4%と、市平均を下回っている。	・公式を使って正確に答えを導くことができるよう、反復練習を行うようにする。 ・既習事項をもとに根拠を明確にしながらか計算させる活動を取り入れていく。 ・課題の解決方法の説明ができるよう、解き方について言語表現の時間を確保し、繰り返し指導する。
図形	平均正答率は、市平均よりも下回っている。 ○正六角形の作図方法から、正三角形の1つの内角の大きさを求める設問において、正答率が76.3%と、市平均を上回っている。 ●線対称な図形について、対称の軸が何本あるかを求める設問において、正答率が55.3%と、市平均を下回っている。	・図形の特徴をとらえたり規則性を見つけたりするような活動を行い、様々な図形についての理解を深めさせたり、正しい作図の仕方を習得させたりする。特に、線対称や点対称の定義や特徴を正確に理解できるようにさせる。
数量関係	平均正答率は、市平均よりも下回っている。 ○帯グラフから割合を読み取り、比較量を求める設問において、正答率が76.3%と、市平均を上回っている。 ●調べた分量と作りたい分量の割合(比)を読み取り、足りない材料の量を求める設問において、正答率が21.1%と、市平均を下回っている。無解答が21.1%だった。	・割合や単位量の求め方についての思考や理解は個人差が大きく、定着が不十分である。図や式を用いて分かりやすく説明したり、生活の具体的な場面と関連させたりしながら、解決できるようにしていく。 ・文字を使った式や比例・反比例の求め方では、課題をよく読み、きまりを見つけて解決するという基本をおさえるよう指導する。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	56.3	71.6	67.4
	生命・地球	59.6	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	53.3	72.1	68.8
	観察・実験の技能	68.9	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	57.4	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市平均よりも下回っている。 ○電流の強さと電磁石のはたらきの関係を調べるためには、どの実験を比較すればよいか指摘する設問において、正答率が57.9%と、市平均を上回っている。 ●水溶液を熱すると固体が残ったことから、どの水溶液であるかを推測する設問において、正答率が31.6%と、市平均を大きく下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・器具名や操作など、実験中に繰り返し児童が使いながら理解できるようにする。また、結果の整理、思考の流れを説明したり、キーワードについての学習を行いながら分かったことをまとめたりする活動を取り入れる。 ・結果を推測し、実験を行い、結果をまとめ、検証するという流れに沿って学習を行い、まとめ方を習得できるようにする。
生命・地球	平均正答率は、市平均よりも下回っている。 ●血液から不要な物をとり除く器官の名称についての設問において、正答率が15.8%と、市平均を大きく下回っている。 ●だ液のはたらきを調べる実験の条件を修正して記述する設問において、正答率が34.2%と、市平均を下回っている。無解答が26.3%だった。 ●生き物どうしの「食べる」「食べられる」の関係についての設問において、正答率が42.1%と、市平均を大きく下回った。	・ヒトの体のつくりや各器官のはたらきについて、図なども活用しながら確認し、正しく理解できるようにする。特に腎臓や、だ液のはたらきについて確認させるようにする。 ・生き物どうしの捕食の関係については、生態系の図などを活用し、理解が深まるよう指導する。

宇都宮市立白沢小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・「めあて」「まとめ」「ふり返り」の確認・徹底	・全職員が共通理解のもとに、授業において「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を板書し、ノートにまとめる指導を行っている。	・「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」では、市平均を3.1ポイント下回った。今後も板書の工夫や、ノートの書き方についての指導を継続していく。
・学び合う活動の実践	・自分の考えを言葉や文章で表現したり、いろいろな形態(ペア・グループ・全体)で学び合ったりする活動を設定している。	・「グループなどでの話し合いに進んで参加している」では、市平均を3.1ポイント下回った。今後も、ペア・グループなどによる話し合いの活動を継続して行う必要がある。
・家庭学習の習慣化・充実に 向けた指導の工夫	・「家庭学習の手引き」などを活用し、宿題以外にも自分で考えた学習をするように指導している。また、どのような学習をしたらよいか、例を示したり、友達のやり方を紹介したりしている。	・「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」の発問で、市平均を3.1ポイント下回った。「家庭学習の手引き」などを参考にして家庭学習を進めるよう、今後も継続して指導する。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・学習の基礎・基本となる漢字・語句の学習や計算の力などが確実に定着するよう、授業時間だけではなく、朝の学習の時間を活用したり、家庭学習を奨励したりして、繰り返し学習できるように支援する。国語辞典や漢字辞典を活用させ、漢字や語句についての理解が深まるようにさせる。
- ・自分の考えや気付いたこと、分かったことなどを、文章や式、図などによって表現したり、まとめたりする活動を、各教科において継続的、意図的に行うようにする。
- ・授業において、まず児童が自分の考えをまとめ、次にペア・グループ・全体等の学び合う場を設定し、話し合う活動を取り入れるようにする。
- ・「家庭学習の手引き」などを参考にして、自分から家庭学習に取り組むことができるよう、指導を継続する。